

～大学生が町にやってきた！～ 「おいでませ 紙芝居へ」企画

・ 構成員

- 代表者 : 山本麻祐子 (文化創造 学科 1 年)
会計 : 水谷遥 (文化創造 学科 1 年)
指導教員 : 斉藤理 (文化創造 学科)
メンバー : 岡崎加奈子 (文化創造 学科 1 年) 山縣志央理 (文化創造 学科 1 年)
 長友千夏 (文化創造 学科 1 年) 山中水那子 (文化創造 学科 1 年)
 守永香里 (文化創造 学科 1 年) 山根加奈 (文化創造 学科 1 年)

・ プロジェクトの目的

- ①山口の昔話を題材にした紙芝居をオリジナルで作成し、地域文化の魅力を再確認したい。
- ②地域の子供たちを対象に紙芝居を実演することで、地域文化について認識を深め、山口に関してさらなる興味と愛着を持ってもらいたい。
- ③上記の紙芝居を数種作成し、山口県立大学キャンパスをはじめ、宮野駅などの地域交流センター、さらに可能であれば一の坂川周辺でも紙芝居を実演し、大学と地域の子供たちとを繋ぐイベントとしたい。

・ 活動内容

1. 紙芝居作成 (6月～10月)

- 山口県の昔話載っている本や、阿東町地福の方から頂いた資料を基に紙芝居の題材を考えました。



- 3つの題材が決まり、それぞれ10～12枚の紙芝居の制作を始めました。

【うすうすまわれ】防府市に伝わる不思議なうすの話。

【白狐伝説】山口市に伝わる白い狐の話。

【といとい】阿東町地福に伝わる、今でも行われている無形文化遺産の話。



- 3つとも自分たちでストーリーや図案を考えました。

- 6月から10月までかけて紙芝居を制作しました。

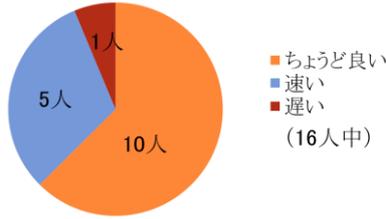
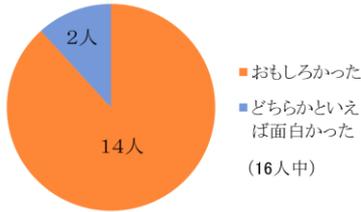


3. アンケート結果

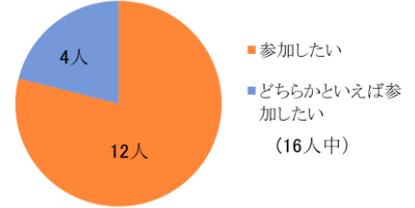
○『着物喫茶』と宮野地域交流センターでアンケートを行った結果、このようになりました。

～大人用～

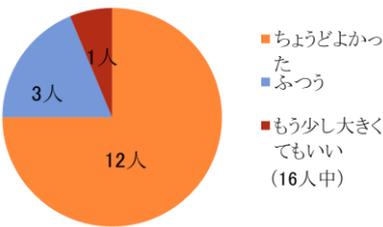
1. 紙芝居の内容はどうでしたか？ 3. 読む速さはどうでしたか？



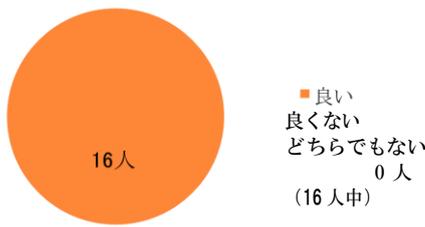
5. また参加したいですか？



2. 声の大きさはどうでしたか？

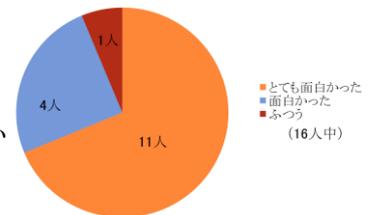


4. 大学生が紙芝居をすることをどう思いますか？



～子供用～

紙芝居は面白かったですか？



・成果及び感想

今回 YPU ドリームアドベンチャープロジェクトに参加し、何かを企画し実行することの難しさを身を持って知りました。

紙芝居を披露した初めの2回は最初からその場にお客さんがいらっしゃる状態で行ったので、お客さんを呼ぶ大変さが分かりませんでした。3回目に自分たちで最初から企画した場に立ち、1時間待っても誰も来なかったときに初めて企画に参加してもらうことの大変さが分かりました。この時宣伝不足を深く反省し、宣伝の重要性を強く感じました。

企画を行った6か月間は初めての経験ばかりで大変なことも多かったです。紙芝居が完成した時や一生懸命紙芝居を見てくれる小学生を見た時、大変だったことなど忘れ去るぐらいうれしい気持ちでした。何かを企画するという事は決して簡単なことではないけれども、その大変さを1年生のうちに知ることができてよかったと思います。

・指導教員のコメント

昔懐かしい「紙芝居屋さん」を若い世代が取り組むという興味深い活動だ。特に地福での「トイトイ（重要文化財）」の紙芝居制作と上演は、同文化財の若い世代への継承を望む地域の方に好評で、今後も発展させることを期待する。

・収支報告

配分額		70,000 円
支出内訳	製作費	9,504 円
	宣伝費	9,255 円
	交通費	3,420 円
	駄菓子費	2,076 円
	保険費	1,120 円
支出合計		25,375 円
残金		44,625 円